

見やすい！
分かりやすい！

バリアフリーマップ作成のポイント



💡 見やすい！分かりやすい！4つのポイント💡

1 『選択肢』を提供する

一言で車いすユーザーといっても、障害の程度により、一人一人の状況は違います。作成する側で行ける・行けないや、入れる・入れないを決めるのではなく、あくまで情報発信をすることを心がけましょう。



2 発信する情報の強弱・優先順位をつける

あれもこれも発信したいという思いから、たくさんの情報を詰め込みすぎているマップをよく見かけます。当事者にとって重要な情報は文字の大きさを変える・ピクトサインの大きさを変えるなど、優先順位をつけましょう。



3 見やすいフォント・文字間/行間を意識する

UDフォントを使用することで、マップ全体が見やすい印象になります。また、文字が密集しないよう、行間・文字間を適切にすることで、より見やすい印象を与えます。

見やすい！分かりやすい！
バリアフリーマップ

見やすい！分かりやすい！
バリアフリーマップ

4 色の区別がつきづらい方に配慮する

色覚障害といって、色の区別がつきづらい方がいます。そういった方も区別がつく色や柄を使用することで、多様な方に配慮したバリアフリーマップとなります。



一般的な見え方

色覚障害(P型)の見え方

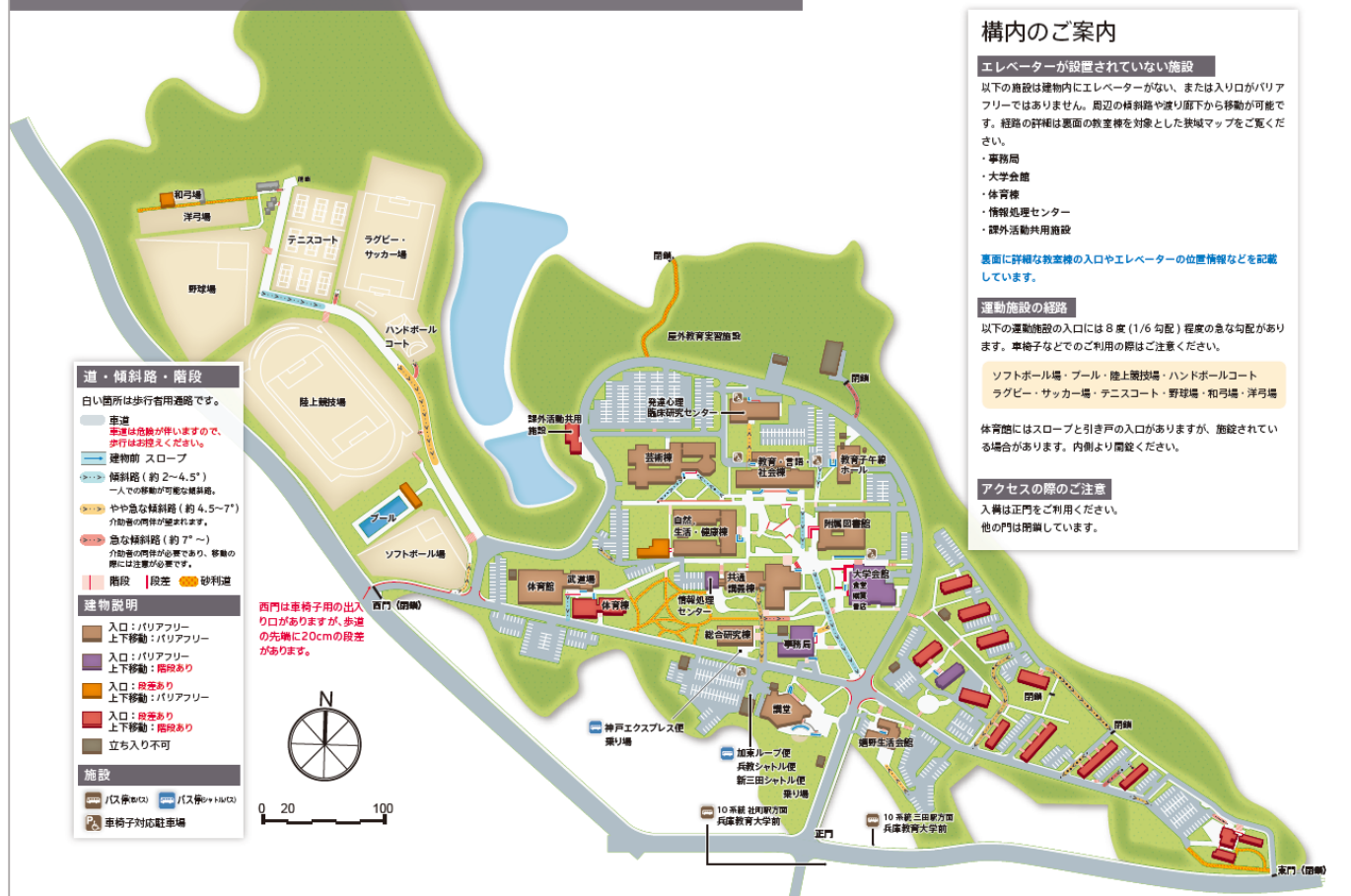
株式会社ミライロのバリアフリーマップは、障害のある当事者による現地調査・確認を行います。それぞれの場所によって課題は違うので、各場所に合った情報の優先度を分析し、マップに反映しています。



株式会社ミライロ バリアフリーマップ 事例集



兵庫教育大学 嬉野台地区バリアフリーマップ 広域



抱えていた課題・経緯

兵庫教育大学は、自然豊かな土地に建てられており、のびのびと教育を受けられる環境です。一方で、傾斜が多く、起伏が激しいという課題がありました。そこで、建物のバリアフリー状況の調査とその状況を発信するバリアフリーマップの作成のご依頼をいただきました。

POINT



車いすユーザーがキャンパス内の建物を全て回ったことで、建物内の段差やエレベータの整備状況に差があることがわかりました。そこで、建物のバリアフリー状況を色分けし、サポートの有無を一目で判断できるようにしました。

同じ車いすユーザーでも、障害の程度により状態は異なります。そこで「傾斜がある」という情報だけではなく、傾斜の角度を細かく分けて発信することで、一人で行けるかどうかを判断していただけるよう工夫をしました。

事例② 神戸大学 様

▶ 掲載ページ

<https://www.kobe-u.ac.jp/SCCL/map/index.html>



※バリアフリー情報は色で分類しているため、カラー印刷をご利用ください。

六甲台1キャンパス施設一覧

- | | |
|---|--|
| <p>26 人間発達環境学研究所実習観察、管理棟
Experimental Garden, Graduate School of Human Development and Environment
※出入り口前には急な傾斜路がありますのでご注意ください。</p> <p>27 武道場 (剣道場)
Karatedo Martial Arts Gymnasium
※駐車場の奥側にスロープでの経路があります。</p> <p>28 第二研究室
Faculty offices (2nd floor)
※急な傾斜路の途中に入口があります。
近くに車椅子用駐車場があり、車でのアクセスが可能です。</p> <p>29 社会科学系フロンティア館
Frontier Hall for Social Sciences
※正面階段よりエレベーターでの出入りが可能です。
入り口の場所は、</p> <p>30 ラ・クール (模擬法廷)
La Cour Mock Court Room
※自動ドアが利用できないため、開き戸をご利用ください。</p> <p>31 第二学舎 (法学研究科)
Faculty & Graduate School of Law
※建物東側の建屋にエレベーターがあります。</p> <p>32 社会科学系図書館
Library for Social Sciences
※正面入り口は階段ですが、東側に車椅子用出入り口があります。</p> <p>33 経済経営研究所 (新館)
Research Institute for Economics and Business Administration (Annex)</p> | <p>34 経済経営研究所 (兼松記念館)
Research Institute for Economics and Business Administration (Kamatsuki Memorial Hall)
※建物北側にスロープと自動ドアの経路があります。</p> <p>35 三木記念同窓会館
Miki Memorial Hall
※アクセス経路は階段のみです。</p> <p>36 法科大学院自習棟
Study Hall (For Law School students)
※建物内のエレベーターをご利用の際はスタッフに声をかけください。</p> <p>37 本館 (経済学研究科、経営学研究科)
Main Building (Faculty & Graduate School of Economics, School & Graduate School of Business Administration)</p> <p>38 第三学舎
Faculty Offices (Economics, Business Administration)</p> <p>39 第四学舎 (企業資料総合センター)
Integrated Center for Corporate Archives</p> <p>40 第五学舎 (国際協力研究科)
Graduate School of International Cooperation Studies</p> <p>41 出光佐三記念六甲台講堂
Idemitsu Sazo Memorial Rokkoudai Auditorium</p> <p>42 社会科学系アカデミア館 (放送大学兵庫学習センター)
Academia Hall for Social Sciences (The Open University of Japan, Hyogo Study Center)
※エレベーターで3Fへお乗りいただき、傾斜路を渡り移動が可能です。</p> |
|---|--|

注意が必要なアクセス経路

▲ 正門周辺の階段 正門前は階段、長い距離の傾斜路があります。円滑な出入りに関しては、42番「社会科学系アカデミア館 (放送大学兵庫学習センター)」内のエレベーターより3階へお乗りください。	▲ 講堂北側傾斜路 講堂北側に長い距離の傾斜路があります。移動が不可能ではありませんが、距離が長いので、一人での移動は身体への負担が大きいです。車での移動や介助者の同伴が推奨されます。	▲ 社会科学系フロンティア館から運動場へのアクセス 運動場へのアクセス経路は階段、または西側の道路ほか、29番「社会科学系フロンティア」内のエレベーターで3階へお乗りいただき、傾斜路を渡り移動が可能です。
---	--	--

抱えていた課題・経緯

神戸大学の六甲台団地は4つのキャンパスが道を隔てて隣接しています。建物ごとのバリアフリーは進んでいましたが、坂道が多いため、車いすユーザーの移動経路が複雑になることが課題でした。

そこで、通年のバリアフリー計画の中で、キャンパス内の通路の傾斜やバリア状況の調査を行うと共に、それらの情報発信を行うバリアフリーマップ作成のご依頼をいただきました。

POINT

正門前は階段、長い距離の傾斜路があります。円滑な出入りに関しては、42番「社会科学系アカデミア館 (放送大学兵庫学習センター)」内のエレベーターより3階へお乗りください。	講堂北側に長い距離の傾斜路があります。移動が不可能ではありませんが、距離が長いので、一人での移動は身体への負担が大きいです。車での移動や介助者の同伴が推奨されます。	運動場へのアクセス経路は階段、または西側の道路ほか、29番「社会科学系フロンティア」内のエレベーターで3階へお乗りいただき、傾斜路を渡り移動が可能です。
--	---	---



特に注意が必要な場所は、写真でも掲載しました。マップデザインからは分かりづらい情報を写真で補うことで、車いすユーザーにとって、より安心できるバリアフリーマップに仕上がっています。

バリアフリーマップと同時に、キャンパス内を案内するサインの整備も行ったことにより、サイン内にも傾斜などの関連するバリアフリー情報を掲載することができました。

事例③ 上野文化の杜新構想実行委員会 様 (上野恩賜公園)

▶ 掲載ページ

<https://ueno-bunka.jp/bfmap/>



抱えていた課題・経緯

(※)2019年12月時点のマップを掲載しております

上野公園にある文化・文教施設から成る上野文化の杜新構想実行委員会では、東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、さまざまな文化芸術活動や取り組みを行っています。その一環として、上野恩賜公園で「より多様な方が快適に過ごせるための情報発信をしたい」という思いから、バリアフリーマップ作成のご依頼をいただきました。

POINT



障害のある当事者モニターに試作品を確認いただいた結果、障害の種別によって求めている情報が異なることがわかったため、色のコントラストの高い地図と情報量の少ない地図を作成し、好きな方を選べるようにしました。

Webにバリアフリーマップを掲載したことで、より細かい情報の提供が可能になりました。例えば、多目的トイレの情報には、外観・内観の写真が掲載されており、細かい設備の有無まで分かるようになっています。